

平成 29 年度第 1 回福岡市子ども読書活動推進会議議事録

日時	平成 29 年 8 月 21 日（月）10：00～12：00
場所	福岡市役所 502 会議室
議題	・ 福岡市子ども読書フォーラムについて ・ 子ども読書活動推進に関する課題等について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし

1 開会

(1) 事務局挨拶

(2) 各委員の紹介（団体紹介）

2 委員長・副委員長の選出

3 報告

(1) 福岡市子ども読書活動推進計画（第 3 次）の策定について
報告資料に基づき、事務局説明

4 協議

(1) 福岡市子ども読書活動フォーラムについて
協議資料に基づき事務局説明

委員長 昨年度のフォーラムに参加した方から感想などをいただきたい。

委員 毎年参加している。あちこちのブースでみんなが絵本や本やお話などを楽しんでいる、ボランティアの方が力をもらっているように思う。今年も楽しみにしている。

委員 読書フォーラムのときは自分たちのことで精一杯で他のところを回れていないが、いつも他の所も回りたいと思っている。年々お母さん達は、熱心になってきており、赤ちゃんに読んでいる人が増えてきている。今までの活動の成果が出てきていると実感している。

委員 アミカス会場で、読書フォーラムを初めて知った方もいることから、市内の東や西やいろんな所で開催するなど、会場を変える予定はないか。

事務局 今年度は既に会場を押さえており、行政は、終わってすぐに会場を押さえないと間に合わない現状がある。会場を変更すると、部屋割り等が変わり、広い部屋が狭い部屋になったり、不都合も多くなる。婦人会館がなくなってから、アミカスに移ったが、1日半から2日間貸し切るので施設との交渉も難しい。西や東での開催は、触れていない人にも知ってもらえるのも確かなので、今後検討していきたい。

委員長 広い会場を確保しないといけないので難しいようだ。

委員 若いスタッフは、何かしたいと思っているが、それぞれ仕事、子育てをされていて、準備会議に3回も参加できない。年配者は控えめ、公民館は積極的には参加してくれない。社会と接点がある人はやろうとしてくれるが。

委員 認知度をどうやって高めるか。主催者が来場者数を把握してもらいたい。何%増えたか、何をして増えたか、毎年検証してほしい。
ボランティアの皆さんは、読み聞かせが上手だった。九州中の本屋、日本中から集まってくる出版社の皆さんにも、読み聞かせが好評だった。自分の子も孫も妻が読み聞かせをしている。感心している。

委員長 小学校図書館研究委員会が、4年ぶりに復活した。環境面での取組みや、小学校で一人ひとりにお知らせを配付したのがよかった。とても参考になったので、この取組みを広げていきたい。

委員 市立高校4校ではブースをつくって行ったが、各学校の創意ある取組みができてよかった。啓発、宣伝をもっとしていきたい。市政だよりでは知らせているが、マスコミに投げかけたり、学校のホームページに載せたりして啓発を図っていきたい。

委員長 もっと市民に情報がいくように委員の方にも協力していただきたい。

(2) 福岡市子ども読書活動に関する課題等について

協議資料に基づき、事務局説明

市のある施設から、本を読みものとしてではなく遊び道具にする子どもや、それを注意されない保護者の方がいるとのこと。やむを得ず、事務室で管理し、必要な時に声を掛けて本を渡すようにしているので対応策を助言していただきたい。

また、そういった施設が本について相談できる機関、対象年齢を絞った読み聞かせでボランティアをしてくれる方はいないか。

- 委員 保育士をしていたが、子どもの近くには絵本がないといけない。汚したり、破損したりしてはいけないという考えは、大人の考えである。たくさん読んで、破損したら困るのはなぜか。
- 事務局 限られた冊数しかない。
- 委員 予算とかの問題があると思うが、子どものためには、見えるところに置いてほしい。保護者の中には子を放っておく方もいる。大人の見守りの目が大事。一緒に読む態勢が大事。子どもの本の読み方が変わってきている。保護者が、読んで聞かせていないのではないのではないか。
- 委員長 本を物としてしか扱ってないことが、破損が多くなる原因になっているのでは。
- 委員 保護者の方に理解していただくことが大切。お母さんが抱っこして読み聞かせをしてねということも、根気強く伝える。施設側の人数が足りないのだろうが、事務所にあるのは好ましくない。
- 委員長 施設に誰か入っていただけると保護者の方に納得していただける。読み聞かせの相談や選書は図書館がベストと思われる。
- 委員 図書館司書に相談いただければ対応できる。
生涯学習課がボランティア交流会を開催する予定としているが、その際に相談してみてもどうか。
- 委員 施設に団体貸出の依頼があった場合、対応できるのか。
- 委員 団体貸出に、対応できる。
- 委員 団体の制限はないので、登録要件を満たせば対応できる。
- 委員 図書館の団体貸出は個人貸出と同じで、修復不可能なときは弁償してもらおう。無くしたら探してもらおう。
- 委員 読み聞かせのボランティアをいろんな大学にお願いすることはどうか。
- 委員長 ボランティアグループにお願いするのは可能。大学、教育関係や、幼稚園教諭を養成しているところに声をかける方法もある。
- 委員 具体的にどこの区分かれば、団体のメンバーや、地域の方に声掛けをする。

委員 対象年齢は違うが、どうしても人手が足りないなら、福岡おはなしの会やブックスタートボランティアの方と話し合いながら協力をする。

委員長 コーディネートしてくれるところがあればいいが、そういった組織をつくるのは難しいと思う。いくつかの団体と接点を持つことは可能だと思う。

委員 私のところの子育てサロンでは、本を遊びに使っていない。プログラムに読み聞かせはないが、本を身近なところに置くことで、母親やサポーターが読み聞かせることが大事。なぜ遊ぶのか理解できないが、できるだけ本を子どもたちの身近においてあげられたらと思う。

委員長 他にご意見があれば。

委員 子ども読書フォーラムについて、中学校も参加しているが、実際に事務局として参加している生徒にも交通費は出していない。大人はいいにしても、子どもの交通費ぐらいいは出してもらえないか。開催するのは教育委員会なのだから、義務教育の生徒の交通費はどうにかしてほしい。

委員長 善処いただければ。

委員 幼稚園では、どの園も読み聞かせをやっているし、大切にしている。本を遊び道具にしていることは良くないが、幼児は遊びから始まり学ぶことも視野に入れて、年齢に応じて適宜対応していかなくてはならないと思う。

委員 小学生までは、子どもに毎週読み聞かせをしていたが、子どもが笑うようなもの、「同級生以外も友達だよ」という本をよく見ていた。興味を持つ事は大事。中学校では、朝読で本を読むが、部活で忙しいと全く離れる。小学校や公民館で小さいときに読み聞かせをすることが大事。

委員長 絵本をスクロールする子どもが増えているが、そういうことについて意見はないか。

委員 35年前に文庫活動をしていたが、遊び道具の本と読み聞かせの本は分かれていないと私は思う。本は自分だけでなく、みんなが読んでいるということがどれだけ理解できているか。大人は、子どもが字を学ぶ3才までに本を読み聞かせることの大事さをわかっていないといけない。子どもとメディアの関係をプログラムしているが、ゲームをやめて何をするかを具体的に考え付かない子どもも多い。1つの方法として本を勧めるプログラムを検討している。中学生のプログラムでどうすれば本を読むのか、いただいた意見を参考にしたいと思う。本の楽しさを知らないのは危険だと思う。

- 委員 赤ちゃんのうちは保護者も読み聞かせるが、年齢が上がると読まなくなってくる。
- 委員 赤ちゃんの本は難しい。絵本を読むときに、赤色と読むと、赤はこの色だよと母が子に話しかける。繰り返し話しかけることで、さらに、興味がわく。会話ができることで、母親が和らぐ。これが絵本の魅力と思う。ブックスタートでは、このように親が子どもを膝の上に載せて読み聞かせることを大切にしている。
毎年行っているフォーラムを、もう一步踏み込み、何かできないか考えたい。
- 委員長 母親へのフォローももう少し積極的にできればと思う。
- 委員 質問だが、小児科医が、赤ちゃんとスマートフォンの接触時間が長くなっていることに警鐘を鳴らしているが、小さい子や赤ちゃんに向けたメディアのプログラムもあるのか。
- 委員 啓発は行っている。インターネットが中心だが、危険と知りつつも、泣いたときなどには仕方がないと利用している。子どもは、ぐずることもあるよと社会が寛容になるのが大事。大学の先生やメディアの研究をしている人としてしっかり啓発をしていきたい。
- 委員 スタンダード文庫読み聞かせ講座などで、読み聞かせの大切さを伝えているが、今の時代どれだけ伝わるのか気になっている。そういうことも含めた啓発をする施策を考える必要がある。
- 委員 今日、改めて本とのつながりの大切さを再確認した。
- 委員 子どもが泣くことに耐えられない親、大人、年配の方が増えている。泣くとすぐに何か食べさせるか、スマホを見せるかしている。子どもは泣くのが普通と思うおらかな周りの人的環境と、すぐにお菓子やスマホではなく、言葉かけや会話を多くするように大人が変わることが一番必要と思う。
- 委員長 赤ちゃんのときから、絵本を仲立ちにして心のふれあいと、心の根っこ、言葉の根っこを育てていきたい。そして、社会の在り方も考えていかねばならない。
- 委員 福岡市には、8校の特別支援学校があるが、障がいを持つ子ども達の読書活動がどうなっているのか皆様ご存知か。共生社会の中にあってその実態を理解していただくことはとても大切である。
読書活動の実態は様々で、たとえば知的障がいの子は、認知や人とのかかわりを大切にし、自閉症の子は、毎日同じ本を読むと落ち着く。このように、様々な手段と目的

がある。生涯学習の視点からとらえると、卒業後の余暇活動として読書活動を大切にしていきたい。

肢体不自由の子の中にはページをめくられないので、指でスクロールできるタブレットを利用している子や、外に出ることが限られるので、本を通して世界を広げている子もいる。障がいのある子とない子が読書を通して取り組めることがあったら考えたい。

子ども読書フォーラムでも、インクルーシブや共生社会の視点の中で読書という営みを通して取り組める内容があれば提案していきたい。

委員長 特別支援学級は図書館の資料は充実しているのか。

委員 特別支援学校は図書館だけでなく、子ども個人専用の本のスペースを確保している。

委員長 子どもの障がいによっては、タブレットの活用など、上手にメディアを活用することも必要である。一人ひとり違う子どもたちに、きめ細やかな対応が求められる。

委員 6年続く重点的なことで、中学校での学校司書配当日が年間12日と変わっていない。これでは、とても整備は続かない。子どもと接して、手渡してくれる人が必要で、学校司書が1人でも増えたらと願っている。
特別支援学校には学校司書は入っているのか。

委員 学校司書は入っていない。

委員 特別支援学校こそ司書を配置すべきではないのか。
また、ブックスタートの2時間の間、地域の司書さんにも関わってもらいたい。貸出カードができるし、お母さんの要望も聞ける。ブックスタートボランティアを少しでも進めることができればありがたい。

委員長 専門的なことは学校司書なので、できれば増やしていただきたい。

委員 学校司書は契約が一年更新であるために、継続的な仕事や指導が難しい。私が知る限り、どの学校司書も大変勉強熱心で頑張っている。理解していただきたい。

委員 この会議に3年前から参加しているが、計画策定の際に第2次計画の検証方法で各施策の実施率を言われていた。効果はあったのか。通常、細かくアンケートを取ったり、話を聞いたりして、PDCAサイクルでプランを検討しながらそれぞれの施策で効果があったかを見る。その結果、読書率が90%以上になっていくと思う。もっと丁寧に施策を検証していただきたい。また、中学校現場では司書教諭は日常業務に加えての業務であり、学校司書は年間12日しか配当されていない。これでは丁寧な仕事はできない。司書教諭の代替の先生や学校司書の配置を含め、もっと推進できるよう対

価を払って仕事をしていただければと思う。そういう議論を進めていただければいいのではないか。

委員 学校司書の増員については、平成26年度に定員を30人から36人に増員し、小学校の半数に配置した。要望は十分に承知しているが、限られた予算の中で効果的に運用できるように努力していきたい。国も予算措置を行っているが、市としても予算配当が難しいので意見を伺いながら検討していきたい。また、学校図書館の活性化については、各学校の取り組みが大事で、授業等でもしっかり活用するように指導を続けたい。様々な要望を真摯に受け止め活性化させていきたい。

委員 学校図書館支援センターも3年目を迎え、浸透してきているが、なかなか中学校にはいい反応をされない。図書館と学校をつなぐ支援センターは、小学校、中学校と柔軟な対応が必要である。

団体貸出では、3か月に1回青い鳥号が脇山小学校等にも行っている。

福岡の市境等、交通の便が悪い学校などには青い鳥号も行っているのでは是非活用してほしい。団体貸出、学校図書館支援センターを有効に利用していただければと思う。

委員長 総合図書館を有効に利用していただきたい。是非、参考にしてほしい。